

トイレの歴史～日本編～

●約1万5,000年～約2,300年前の縄文時代

日本で最初のトイレが登場しました。どのようなトイレであったかという、川岸に杭を打って板をわらし、その上でうんちやおしっこをするものであったようです。水洗トイレの先祖みたいなものですね。

●約1,400年前の飛鳥時代

お金持ちは川を建物内に引き込み、うんちやおしっこを流すようになりました。トイレのことを「厠」と言いますが、この「川」を建物内に引き入れたことが「厠」の語源であるとされています。



●約1,200年前の平安時代

トイレの形は変わり、「桶籠」と呼ばれるおまるのようなものが使用されるようになりました。ただし、身分の高い人しか使うことができませんでした。庶民は、家のうらや町の片隅の空地でおしっこやうんちをしていたそうです。



●約800年前の鎌倉時代

汚物を肥料として使用するようになり、くみ取り式トイレが登場しました。

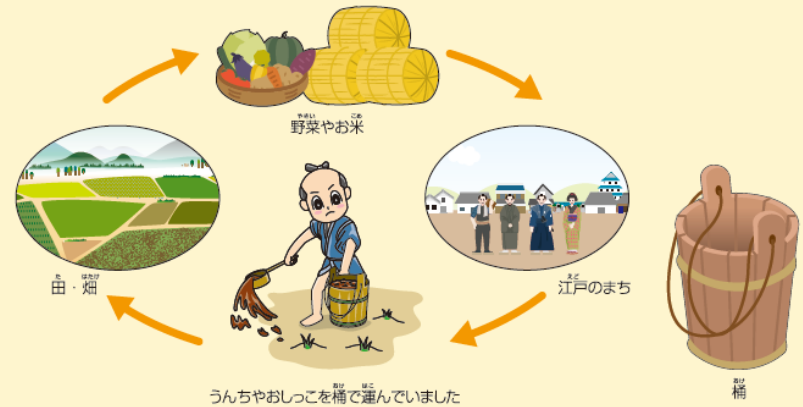


●約400年前の江戸時代

くみ取り式トイレから出る汚物は、肥料として貴重なものとなっていきました。江戸（現在の東京）では、農家の人が野菜と交換するかわりに、汚物をくみ取りに来ていたそうです。また、汚物は商品として、くみ取り業者によって各地へ運び出されたりもしました。



当時の江戸が、人口100万人を超える世界最大の都市に成長し、とても清潔な街だったのは、ヨーロッパでは「あとしまつ」に困り道路に捨てていた汚物を肥料として利用し、農作物の成長を助けるしくみを作ったためであるといわれています。また、このようなしくみを可能にしたのは、日本にたくさんあった杉と竹を使い、軽くて丈夫で、しかも安い「桶」という容器が開発されたからだともいわれています。



●約150年前の明治時代～約100年前の大正時代まで

トイレは引き続きくみ取り式で、汚物も肥料として利用していました。しかし、約100年前の大正時代になると、安い化学肥料の大量生産などが原因で、肥料としての汚物の価値はなくなっていきました。そのため、大都市から出る大量の汚物は、今までとは逆に出すほうが料金を支払ってくみ取り業者に回収してもらうようになりました。

●約70年前の戦後

都市への人口集中化が進み、汚物の行き場がなくなります。行き場のなくなった汚物は、最近まで海に捨てたり、山に捨てたりしていました。汚物を海へ捨てることを禁止した法律は2002年にできました。

みんなが当たり前のように使っているトイレ。今のきれいで臭いがない水洗トイレになるまでには、たくさんの人の努力や知恵、時間やお金がかかっているのです。

おもしろばなし

汚物のなかでも良い肥料になる汚物があったそうです。それは、貧しい町人の家から出る汚物よりも、ごちそうを食べているお金持ちの家から出る汚物のほうが高く売れたそうです。

